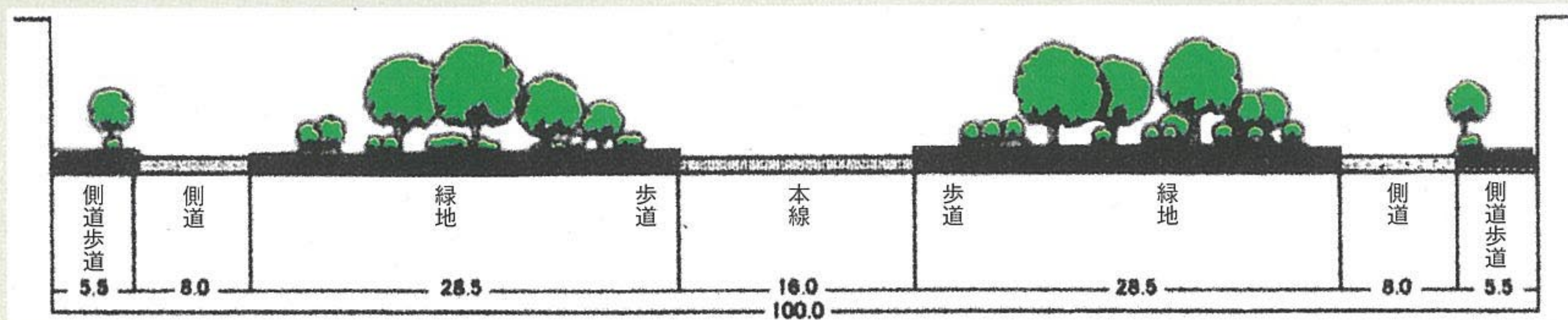


平和大通り

平和大通りは、都市計画街路比治山庚午線4.78kmの一部で、鶴見橋、新己斐橋を含んだ3.93kmの区間です。昭和20年8月6日の被爆前、空襲に備え、建物を取り壊して防火帯にしたため、幅の広い道路になりました。その作業には多くの市民、特に中学生が動員されました。

昭和21年、広島市復興計画において、防災道路を兼ね美観的な緑地を持った道路として計画されました。その後、広島平和記念都市建設法(昭和24年)により、広島市の中央を東西に貫く平和記念道路と位置づけられ、平和記念公園、河岸緑地などと一体化させて整備されることになりました。

「100メートル道路」と呼ばれていましたが、広島市は昭和26年に市民から名称を懸賞募集し「平和大通り」と名付けました。



平和大通りの主な植樹活動

- 初期整備
昭和28年、468本植栽されたがその後はなかなか進みませんでした。
- 供木運動
昭和32年、広島市は「広島のを緑でおおわれた平和の郷に」と樹木の提供を県内市町村、篤志家などに呼びかけ、これに呼応して昭和32年～33年に、約6,000本の樹木が寄せられました。
- 合併の森整備
昭和46年～52年、周辺市町村との合併を記念して各市町村の特徴ある樹木を植栽しました(北1～3, 南1～3)。
- 被爆者の森整備
平成2年 日本原水爆被害者団体協議会により、各都道府県を代表する樹木が植えられ、市に贈られました。
- 各地から寄贈された樹木
昭和28年 アルゼンチン大統領夫人エバ・ペロン氏より、アメリカデイゴ、アメリカサイカチの種子が贈られました。
昭和28年 「世界平和デー委員会」の中心的活動家であるアルフレッド・W・パーカー氏(米国オークランド市)が各国に呼びかけて広島市に寄せられた寄付により、ウメ、カキなどの果樹が植えられました。
昭和32年 広島大学森戸学長が世界に呼びかけて贈られたものと、己斐植木組合が植えたメタセコイアが白神社前の道路両側にあります。
昭和33年 庄原市の七塚原実習農場よりトチノキが贈られました。
昭和36年 ハワイ公園委員会ジョージ・佐々木氏より400本のキョウチクトウ(白花)が贈られました。
昭和46年 小豆島池田町長より平和の木オリーブが贈られ、「オリーブの森」として駅前通りの北東側に植えられました。
昭和48年 青年会議所より贈られたフサアカシアが、白神社前から鶴見橋まで植えられました(枯死・倒木により現存していません)。
平成27年 被爆70周年の年、日米友好のプロジェクト「ハナミズキ・イニシアチブ」により、米国から70本のハナミズキが寄贈され、平和公園南側の「平和の門」付近などに植えられました。

現在、高木だけでも約110種、約2,000本の樹木が根づいています。

被爆樹木

白神社前(爆心地から530m)にエノキ、クログネモチ、ムクノキ、センダン及びカキが、西区西観音町1(北8)(爆心地から1430m)にナツメがあります。

※平和大通り(新己斐橋～緑大橋間)の北1～10, 南1～10が西区エリアです。

| | |
|----------|--|
| 発行 | 平成28(2016)年3月 |
| 企画・編集・発行 | 平和大通り樹の会 広島市西区役所市民部地域起こし推進課 〒733-8530 広島市西区福島町二丁目2番1号 TEL 082(532)0927 FAX 082(232)9783 |

平和大通りの樹木

西区版 新己斐橋～緑大橋



メタセコイア

平和大通り樹の会・広島市西区役所地域起こし推進課